

# 迎春

新型コロナ感染症の影響が続いています。生活困難を解決する政治の実現に力を合わせて頑張りましょう。



2022年

民報編集部

## 皆川市長の寄付不記載問題 返金し、収支報告書を訂正

2017年10月の鶴岡市長選挙期間中に、受け取った現金100万円の寄付をめぐり、選挙運動費用収支報告書に記載がなかったことから、問題が波紋を広げています。

### 記載を失念

皆川氏は、収支報告書に記載が必要との認識はあったが、「市長選の忙しさの中で失念していた」と述べている

### 告示日の翌日に

新聞報道によれば、皆川治氏（現・鶴岡市長）が、初出馬した市長選挙告示日の翌日の10月9日夜に、藤島地域での個人演説会の後、車に乗り込んだ際、現金100万円が入った封筒を支援者から受け取ったとのこと。支援者は、現金を渡した当日の午後10時ごろに、皆川氏から電話があり、お礼とともに、「報告書に記載する方法と記載しない方法がある」と伝えられたと話ししているとのこと。これに対して皆川氏は、「分からない」「記

憶にない」と述べていると報道されています。

### 説明責任は重大

公職選挙法に基づく記載義務の公訴時効期間（3年）は過ぎています。市長の説明責任は重大です。

とも報道されています。

支援者はその後、自身の寄付が収支報告書に記載されていないことを認識し、今年7月ごろ皆川氏に電話して、報告書の訂正を求めたとのことです。

皆川氏は8月28日朝元県議と共に「返金に来た」と支援者宅を訪問し、受け取りを拒まれたため、現金の入った封筒を玄関に置いて帰ったといっています。

25日の新聞報道によれば、皆川市長は、収支報告書を訂正し、100万円の寄付を収入として計上したとのこと



民報HP

## 藤沢周平を読む⑱

鈴木重雄（八色木）

「あげだごとして。やだご」と

おとしは大驚坊を非難した。

「男はいねが、男」

おとしの強い非難に、大驚坊は苦笑いを浮かべたが、意外なことを言った。

「おとしはびっくりして大驚坊を見た。」

「いや、おきくは病人で無」

「そんげびっくりするごどはネ。さつき見だとおきくはもう一人前の女子だ。たとえは夫婦約束した男がいだつて不思議は無。そげだ男で死んだ者はいねか」

「おれが腿サ触ったば、馬みでえに元氣よく足動かしたろうが」

「あら」

「それはな、おきくに死霊がついているさげだの」

とおとしは言った。大驚坊に言われて、おとしは1人の若者のことを思い出した。

「死霊たつて」

とおとしは言った。大驚坊に言われて、おとしは1人の若者のことを思い出した。

「ンだ。死霊から誘わえでの。病いは足ではなくで、ここだの」

彌作と言う名で、三左門の前の喜兵衛という家の次男だった。彌作は3年前に鶴ヶ岡の城下に出て油屋に奉公していたが、今年の年明けに急死した。もともと身体が弱く、死んだのも風邪をこじらせたのだと言っていた。

「ンだば、ご祈祷しえぼその死霊、離れん

おとしはその話をふた月ほど前に母親のともから聞いたのである。

「そう雑作なくはねの。その死霊はむこうから来たのではなくて、あの子が自分で呼び寄せたもんださげ、ただお経読むだけでは退散しね」

喜兵衛では、吹雪の中を櫓を引いて亡骸を引き取りに行き、帰り途中で難儀したということだった。

「近ごろおきくと仲のええ人で、死んだものはいねが？」

彌作を、おとしは5年ほど前しか見ていないから、どんな若者になったかは知りようもなかったが、顔立ちの可愛い、無口な子どもだったという記憶がある。

「三左門の爺ちゃんが死んだなは4年前だし。あどはともちゃんていう友だちが死んだつけ。葬式るとき、きぐちゃん泣いて、めじよけなかつたつて話だけ」

「あの子だろが？はつきりしねども」

「それはいつだ？」

「おとしは、あまり自信のない顔で言った。」

「ともちゃんが死んでから、そろそろ2年半ぐれなるものう」

「おとしは、あまり自信のない顔で言った。」

「それではねえよだの。もつと近くサ、誰

「おとしは、あまり自信のない顔で言った。」

# 古郡神楽が「日本の祭り選定の証」 4月23日(土)に再放送 BS12チャンネル

藤島地域の古郡神楽が、山形放送で2021年9月25日、1時間の特別番組で放送されました。

放送は、ダイドーグループホールディングスが2003年から全国の祭りを応援するため、各テレビ局の取材



で「日本の祭り」として放送してきたもので



す。

「ダイドーグループ日本の祭り」は12月22日、鶴岡市に「日本の祭り選定の証」を贈りました。

鶴岡市では初の「選定の証」です。

古郡神楽の特別番組は、4月23日(土)にBS12トゥエルビ(BS12チャンネル)で再放送されます。



古郡 昭和30年代、20人超の小学生がいたが現在男女4人ずつの計8人

## ひと 日下部勇一 (庄内町榎島) 波瀾(乱)万丈の人生 青山 崇

### ■若勢奉公と高校入



1960年(昭和35)、まずは中学校を卒業し、すぐ本家に若勢奉公した。同時に余目高校定時制に入学(昼間の定時制は農業県だけで、大学

の友人に「昼の定時制にいる。などと不思議がられたものだし、週3日(月・水・金)学ぶようになった。

しかし、若勢(若者の奉公人)の仕事は、毎朝4時起床、牛の草刈り、日中は田畑の仕事。翌日は学校に通ったが、「日下部!顔洗って来い」と言われる、居眠りの日々だった。2年間の高校生活で唯一の思い出といえば弁論

大会である。

弁論大会にクラス代表として出場した。演題は「農村青年よ、土を愛せ」である。

「稲作だけで農業は困難になる」と弁論を始める、先輩のE君が「ブタやニワトリを飼え」とヤジを飛ばした。

私は心の中で「そうか」と思った。

今でもE君に会うとそれが話題になる。

しかし思いもかけない準優勝だった。喜んだクラスの仲間、胴上げされ、軽量のため天



### 恥を知らない神経

この世にこんな恥ずかしい事は無いのではなからうか。それは、自分のやってきた仕事の結果が認められずに廃棄(恐らく焼却か)されるといふ事だ。

▲物はアベノマスクと云うもので、大量に残っているのに欲しい所には無償で・と通知したそう。希望は約142万枚だったと。新生児を取り違えないように名前を書いたとの話も。先に書いたんだが、俺の掛かりつけの病院で俺は、アベノマスクを不織布の物に代えさせられたんだから。

▲そんなマスクは、8130万枚・段ボールで10万箱というぜ。この処分にはナンポ掛かるんだか。なにせ今年の3月までの保管料が、約6億円だったと会計検査院の発表だと思っただが。不良品の検査に

井に届いて落ちたが、怪我はなく奇跡的だった。

中学校では、頭を演壇に打つなど、よくも続いたものだ。

中高とも弁士になり、その後町議会議員になった下地は、青年前期にすでに出来上がった。いたよつだ。

若勢しながら学ぶのは苦勞だし、そして学費も払えないので、2学年で高校をやめてしまった。

ところが若勢もやっぱり駄目で、新しい勤め先を探すことになる。

は約21億円掛ったと。しかも、保管料は予算に無かつたらしいが、会計検査院はその支出にナンと申し上げたのかは、報道が無い。

▲担当者や発案者が普通の神経なら、ノイロウーゼから・・・になるような事件だろうが、責任者たるあの人はシャアシャアとしたもんだ。あの7年間にやった数々のことと比べれば、小っちゃい小っちゃいという事か。俺などには解らない政治屋の神経だぜ。

▲この人、面付けなくも、台湾有事には・ナンテ言いだすもんだから、中国で眼を怒らせているヨ。首相は首相で、専守防衛という国是をそつちのけにして、憲法に違反する先制攻撃の敵基地叩きを所信表明で演説したんだ。▲憲法に自衛隊を書き込みたくつての動きが急だ。それは許しちゃうなんねーぜ。(石川)